

平成24年 5月 8日

各 位

本店所在地 東京都千代田区永田町二丁目11番1号
 会社名 株式会社アイレップ
 代表者 代表取締役社長 紺野 俊介
 (JASDAQ・コード2132)
 問合せ先 常務取締役管理本部長 室井 智有
 電話番号 03-3596-8700 (代)

平成24年9月期第2四半期累計期間業績予想と実績値の差異

及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成24年9月期第2四半期決算において、平成23年11月14日に公表した平成24年9月期第2四半期累計期間(平成23年10月1日～平成24年3月31日)の業績予想との差異が生じたのでお知らせいたします。また、こうした業績動向を踏まえ、平成23年11月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでご報告申し上げます。

記

1. 平成24年9月期連結業績の実績との差異及び修正予想等

(1) 第2四半期累計予想数値と実績の差異(平成23年10月1日～平成24年3月31日)

(単位:百万円, %)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	14,835	411	413	199	円 銭 7,321.06
実績値(B)	17,369	470	475	256	9,390.74
増減額(B-A)	2,534	59	62	57	—
増減率(%)	17.1%	14.4%	15.0%	28.6%	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成23年9月期第2四半期)	10,991	413	419	272	10,055.18

(2) 通期予想(平成23年10月1日～平成24年9月30日)

(単位:百万円, %)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想(A)	30,150	858	860	442	円 銭 16,212.26
今回修正(B)	34,914	924	929	520	19,077.82
増減額(B-A)	4,764	66	69	78	—
増減率(%)	15.8%	7.7%	8.0%	17.6%	—
(ご参考)前期実績 (平成23年9月期)	24,983	759	767	426	15,732.74

(注) 上記予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. 平成 24 年 9 月期個別業績の実績との差異及び修正予想等

(1) 第 2 四半期予想数値と実績の差異 (平成 23 年 10 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

(単位：百万円，%)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	13,744	438	231	円 銭 8,484.33
実 績 値 (B)	15,814	481	264	9,694.24
増 減 額 (B-A)	2,070	43	33	—
増 減 率 (%)	15.1%	9.8%	14.3%	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 23 年 9 月期第 2 四半期)	7,763	329	191	7,076.06

(2) 通期予想 (平成 23 年 10 月 1 日～平成 24 年 9 月 30 日)

(単位：百万円，%)

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前 回 予 想 (A)	27,938	893	481	円 銭 17,660.23
今 回 修 正 (B)	32,263	921	515	18,900.58
増 減 額 (B-A)	4,325	28	34	—
増 減 率 (%)	15.5%	3.1%	7.1%	—
(ご参考) 前期実績 (平成 23 年 9 月期)	19,118	708	391	14,429.75

(注) 上記予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

3. 修正の理由

当第 2 四半期連結会計期間におきましては、海外経済状況の改善や緊急経済対策の効果などを背景に、予想以上に、当社の中心的なサービスであるリスティング広告の出稿が増加いたしました。リスティング広告が継続的に成長する一方で、モバイル・スマートフォン向けアドネットワーク広告の取り扱いも増加しており、連結売上高は当初の予算を上回りました。

また、利益においては、平成 24 年 2 月に実施した新本社移転に関する費用を計上いたしました。リスティング広告及び SEO の販売の伸びによる利益額の確保に加えて、継続的な販管費等支出の管理を行ってきた成果がでております。

通期におきましても、引き続き成長が続くと予想される SEM 市場を中心としたインターネット広告の市場において、グループ企業間での連携強化とシナジーの活用により競争力を高め、当社は「デジタルマーケティングエージェンシー」として「デジタルマーケティング領域」において、モバイル関連やソーシャルメディア領域など幅広く、総合的にクライアントとのパートナーシップを構築して参存であります。

こうした戦略により、個別業績、連結業績とともに売上高の増加を見込んでおります。一方で、利益については売上高増加の影響が見込まれるほか、グループシナジーの追求により効果的な管理費用の削減などに努めて参ります。

以上の結果、経済環境には多くの不透明な要因はあるものの、第 2 四半期までの実績と当社グループの現状の取り組み状況を考慮し、通期業績予想を修正いたします。

以上